

平成25年2月19日

野洲駅

野洲文化ホール

文化小劇場

第4回

野洲駅南口周辺整備構想検討委員会

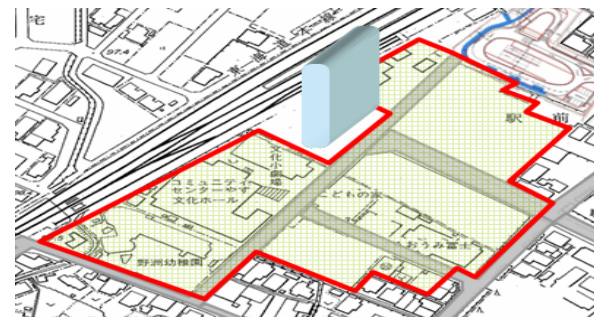
野洲市政策調整部
企画調整課地域戦略室
(587-6141)

南口におけるにぎわい創出

南口におけるにぎわい創出①

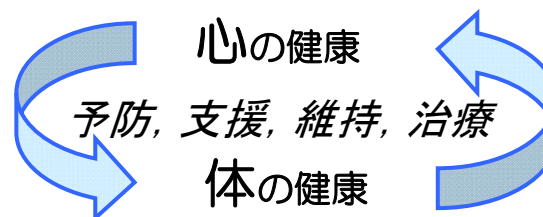
○第3回検討委員会までの流れ

「にぎわいと活力にあふれた地域」



ヒトとヒトのつながりによるにぎわい

健康に着目した
駅前空間づくり



決定事項
(市民の願い)

- ・対象区域全体を健康ゾーンとして検討
- ・多目的に利用できる空間
- ・鉄道利用者の集客
- ・緑が感じられる空間
- ・多世代が利用できる空間
- ・機能の集約(複合化)
- ・商業サービスは補完的な役割

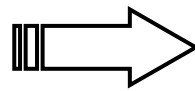
更なる検討を進めるために考え方の整理が必要

南口におけるにぎわい創出②

○駅南口周辺の道路渋滞への懸念があるが…



駅前の渋滞はいつ発生

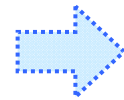


平日朝夕の通勤時間帯（悪天候日）
※日中は閑散

■渋滞発生の要因

- ①混雑している国道8号や大津能登川長浜線の車が野洲中央線（市役所前）に流入する。その結果、駅周辺が渋滞する。
- ②南口駅前広場への進入退出が一箇所である、かつ、周辺では交通規制（一方通行）があることから、駅前広場を含め駅周辺が渋滞する。

安全策



緩和策

＜野洲駅南口駅前広場整備事業＞

- ・交通結節機能を拡充し、安全安心な空間整備
- ・円滑な交通を阻害している車両の輻輳を解消する
一般車両、タクシー、バスの適切な乗降場配置 など

＜野洲市交通ネットワーク構想策定＞

- ・交通ネットワークの円滑化や地域交通のあり方を検討中
- ・国道8号バイパス等の整備 など



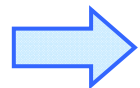
健康をテーマとしてにぎわい創出を目指す中で、駅前渋滞をどう捉えるのか

積極的な考え方

⇒ 道路渋滞を課題認識するとともに、にぎわい創出のためのあり方を検討

消極的な考え方

⇒ 道路渋滞の懸念にとらわれ、にぎわい創出を断念



道路渋滞を課題認識する中で、積極的な考え方が必要

南口におけるにぎわい創出③

○医療機能の必要性の再確認

第3回検討委員会では…

賛否があるが、不必要と断言できないことから医療機能を含めて引き続き検討

(委員意見)

賛成

- ・利便性の高い駅前に病院があることは魅力であり、市外からの集客も期待できる
- ・健康をテーマとした新たな空間に予防と治療はセットで必要

反対

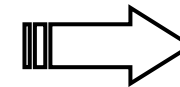
- ・交通アクセスに課題のある駅前に病院は不必要
- ・医療機能のうち、診療所は市内に飽和状態で、診療所であれば駅前に不必要

<病院と診療所の違い>

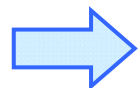
- ・病院…20床以上の入院施設を持ち、比較的高度な治療や検査を医療サービスとして提供する施設
- ・診療所…入院施設を持たない、もしくは、20床未満の入院施設を持ち、比較的軽度の疾病治療・管理や検査を医療サービスとして提供する施設

考え方の整理

- ①南口整備の検討のポイントである「実現性」、「持続性」の観点
- ②現状ではなく、中長期的な視点のまちづくりの観点
- ③にぎわい健康ゾーンとしての明確なPRの観点



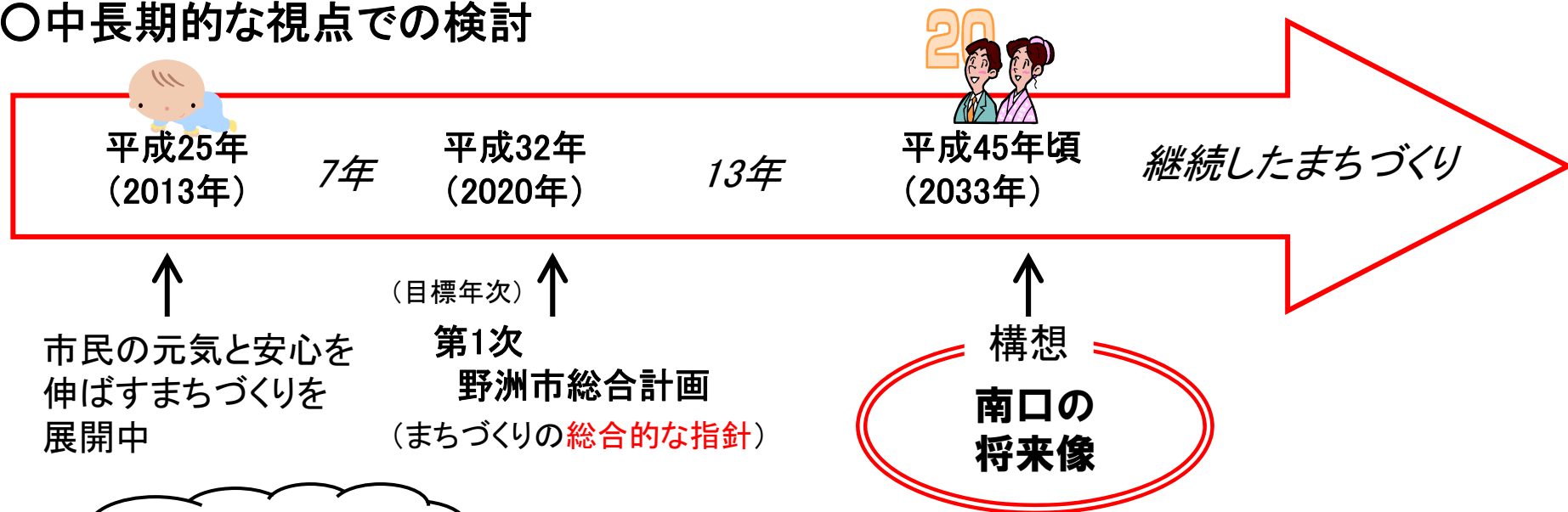
市民の
・安全、安心
・期待



医療機能には病院を位置づけて、南口整備に盛り込む

南口におけるにぎわい創出④

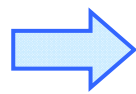
○中長期的な視点での検討



なぜ中長期的な視点が
必要なのか



- ①野洲市の玄関口であり、将来にわたる市民の財産の活用
- ②南口周辺整備の取組みは持続性のあるにぎわいづくり
- ③市内に機能的に重複した施設や老朽化等による課題のある施設を抱えている



官民間問わず現在のサービス提供の将来保障はない
身の丈にあった持続可能なまちづくりへの転換が必要

南口におけるにぎわい創出⑤

＜持続可能なまちづくりのために＞

目指すべき都市像 第1次 野洲市総合計画(改訂版)

豊かな歴史と自然に恵まれた
にぎわいとやすらぎのあるまち



公共サービスの提供

健康、文化、スポーツ、教育、福祉、
環境などの施設を維持管理

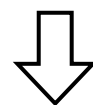
計画的な

投資

維持管理

見極め

例) 計画的でなかった小・中学校耐震化
平成21年度末53.8%(県内最低)



安心・安全のため最大限の投資

平成24年度 約100%

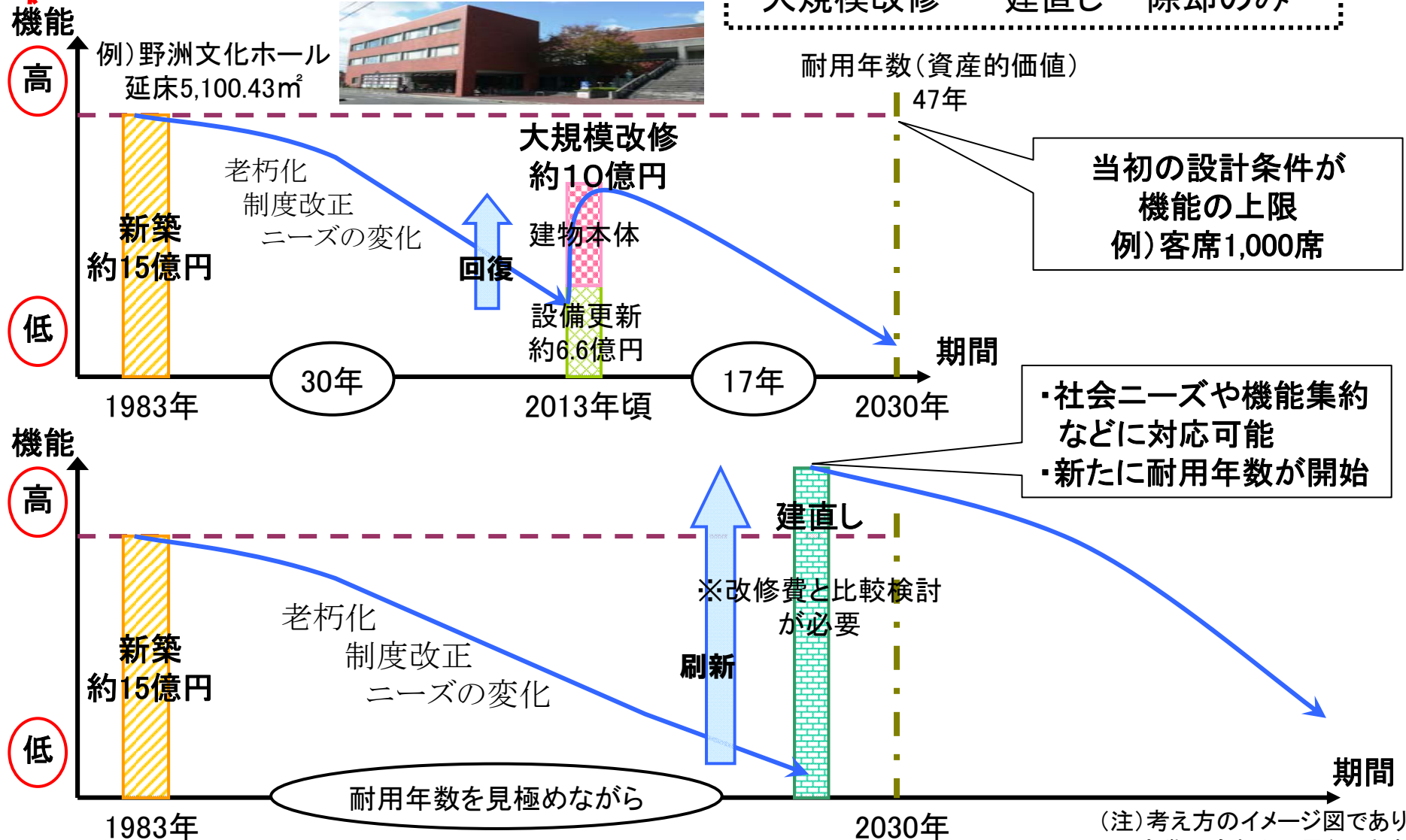
段階的な計画が必要

南口におけるにぎわい創出⑥

例えば <施設改修のイメージ>

老朽化した施設への対応策

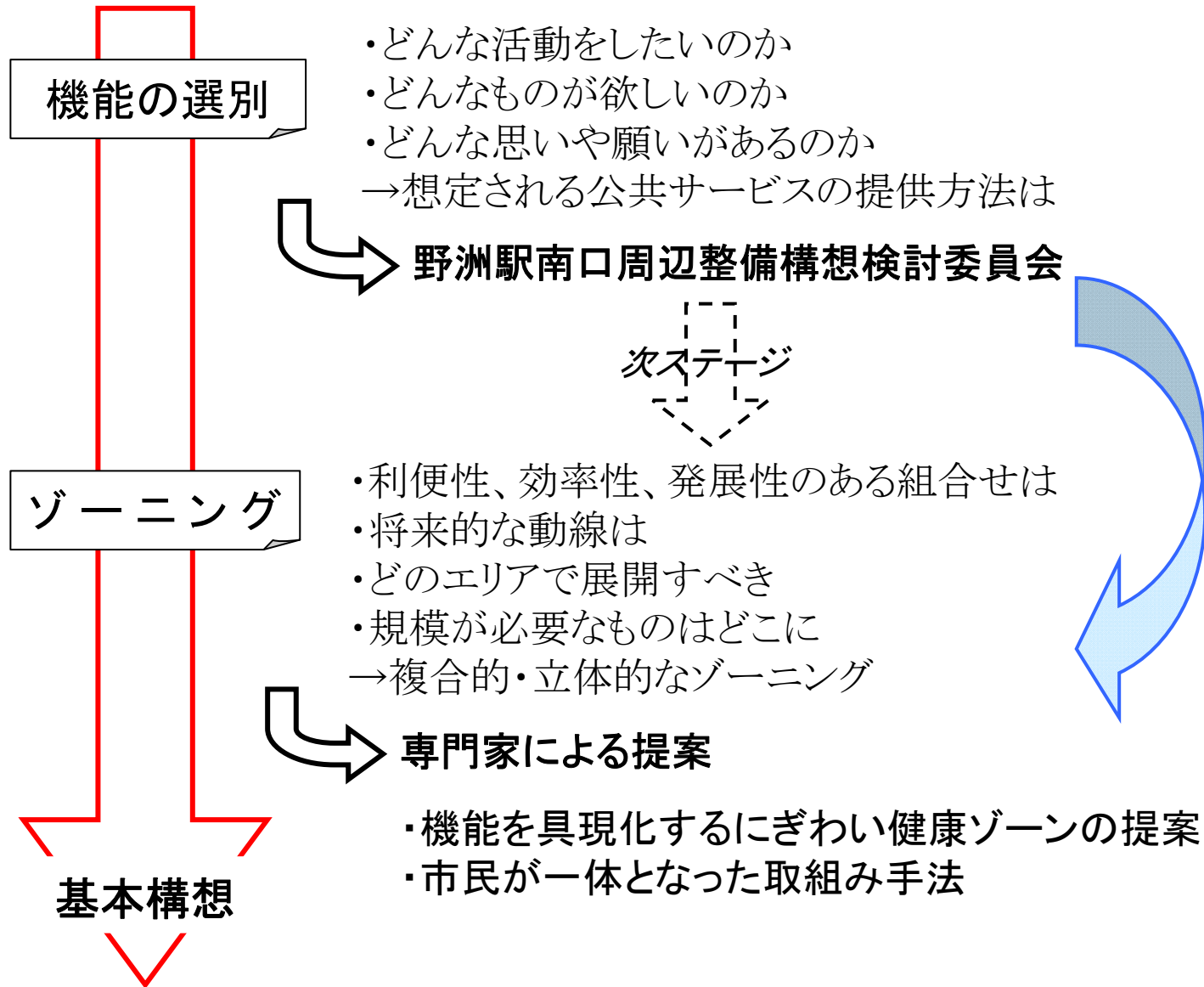
- ・大規模改修
- ・建直し
- ・除却のみ



(注) 考え方のイメージ図であり
実際の金額とは異なります

南口におけるにぎわい創出⑦

○野洲駅南口周辺整備構想策定の流れ



条件整理が必要
市民の願い



など

南口におけるにぎわい創出⑧

検 討 課 題

○南口における にぎわい創出の考え方の整理

- ・道路渋滞に対する考え方
- ・医療機能についての考え方
- ・中長期的な視点における考え方

にぎわい健康ゾーン

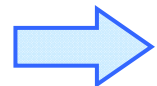
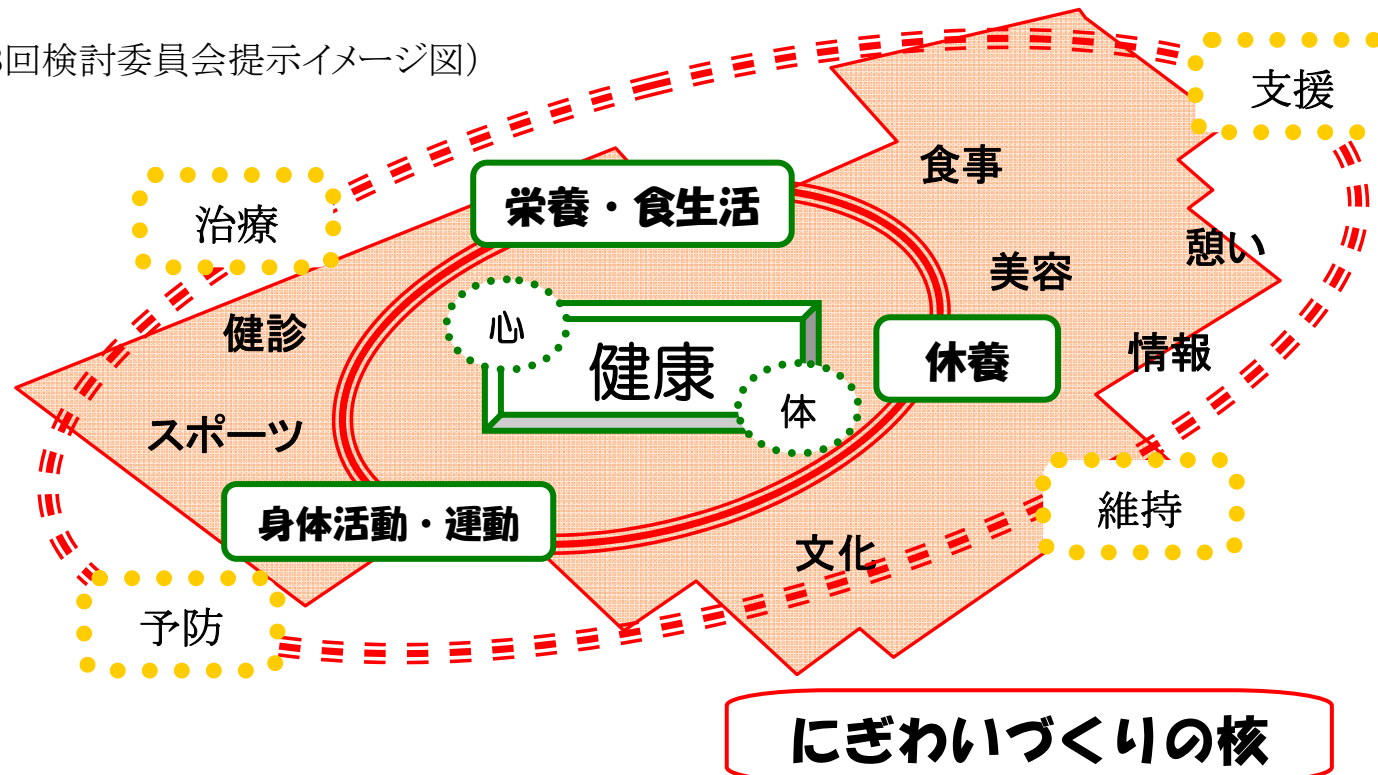
にぎわい健康ゾーン①

心と体の健康を通じた
にぎわいある駅前づくり



- ・どのような活動をしたいか
- ・どのような活動をすべきか
- ・どのような活動が求められるのか

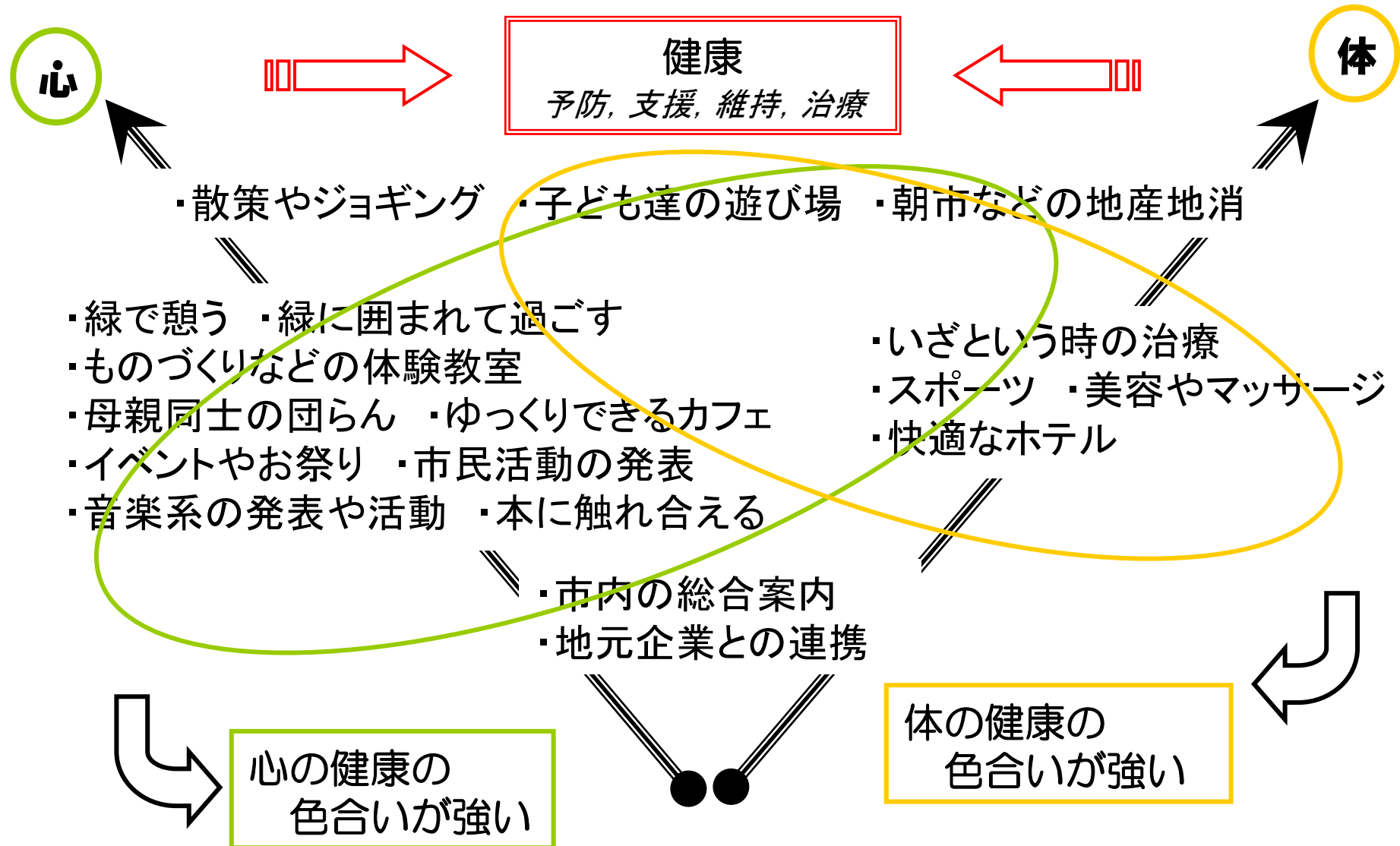
(第3回検討委員会提示イメージ図)



どのような機能を市民活動拠点として位置づけるのか

にぎわい健康ゾーン②

○これまでの市民意見との関係性



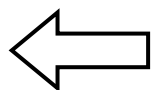
にぎわい健康ゾーン③

○核となる市民活動拠点(公共サービスの提供)

(注)決定事項ではありません

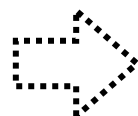
心と体の健康を実現できる市民広場

ヒトとヒトとの出会いが生まれる場



- ・誰もが自由に利用できる場
- ・子どもが安心して遊べる場
- ・緑を感じる憩いの場
- ・音楽など市民活動を発表できる場

にぎわい創出



市民

育てる

まち



市民広場の機能

多目的

- ・日常的な利用を含め市民活動の発表や各種イベントの開催など、ひとつの用途に縛られずに主催者にも参加者にもなれる広場

多世代

- ・子どもから高齢者が同世代はもちろんのこと、世代を超えて気軽に利用でき、出会いや繋がりを育むことができる広場

集客

- ・日常的な市民の利用により日頃から人が訪れ、鉄道利用者を含む多くの人に興味を与える広場

複合化

- ・駅前広場や周辺に整備されるであろう機能と相乗効果により更なるにぎわいを生むことができる広場

にぎわい健康ゾーン④

検討課題

○南口にふさわしいにぎわい健康ゾーンは

どんな活動を
したい？

どんなものが
欲しい？

検討委員の願いは？！

どんな思いや
願いがある？

実現のための
課題は？

グループA(市民代表・公募委員)
⇒市民の願い
グループB(行政機関・公共交通)
⇒広域的視点

事務局連絡先

野洲市政策調整部

企画調整課 地域戦略室

TEL 077-587-6141

FAX 077-586-2200